

コロナ禍の保育 ~今、保育園で~

発信：九州合研常任委員会 2021.2.24



『コロナ禍での大人の関係を考える』

あーコロナのせいで今年度は、忘年会も新年会も歓送迎会もしませんでした。そのせいか職員が今どんな生活をしていて、どんなことに悩んでいるのか見えにくくなりました。「〇〇さん第2子が欲しいって言ってたよ」「最近〇〇さん腰が悪いんだって」「〇〇さん。〇〇とうまくいってないんじゃないかな」なんて他愛ない情報が回りまわって入ってくることもしばしば。保育中に職員と雑談する時間は無いし、これまでもいろいろあったからコロナ禍のせいだけではないのですが、なんかなあーともやもやした気持ちはぬぐえません。

対保護者との関係も、毎月やっていた保育参加日やクラス懇談会を中止。

そのせいか、特に新入園児の生活や保護者の思いがつかみにくくなりました。保護者といっしょに取り組んできた行事は縮小、職員だけの取り組みに。保護者会活動もストップしたため、他のクラスはもちろん、同じクラスの保護者でも送迎時間がちがうと、顔も名前も知らない方もいるのではないかと、この1年で一気に保護者同士の関係が希薄になったのを感じます。

「子どもも大人も共に育ちあおう」という共同保育所としてスタートした園の理念が、コロナによって根本からぐらついてきたようです。

しかし嘆いてばかりでは前に進めません。コロナ禍での保育を検証し、ポディシブにとらえていかねば……。

まず保育者は、保護者の参加なしの行事のため、子ども主体にすすめていけます。夜、頻繁に行っていた保護者との打ち合わせ会議がないことで、特に子育て中の保育者が救われています。保護者も、各係活動がなくなり、夜の会議等に時間をとられることはありません。

運動会は、午前中のみでしたが、クラス競技は例年どおり。年長は竹馬や鉄棒、ソーラン節等を披露し、保護者からの感想はどれもよいものでした。合宿は宿泊なしでものたりないかと思いましたが、子どもたちは花火等で、夜まで楽しむことができました。まあ子どもが昨年と比べてどうこう文句をいうことはないのだから保育者目線での感想ですが「これはこれでよかった」というもの。必死でがんばったのと普通にがんばったのが同じ? ……気持ちは複雑です。

新しい保護者は、夜の会議に子どもをつれて出ることがあるなんて知らないでしょう。これが数年つづいたら、再開するとき保育者も保護者も負担に感じるかもしれません。もちつきでの父母・祖父母の活躍。まつりのステージでの保護者のパフォーマンス等に「大人になるっていいなあ。楽しいことがいっぱいありそう。いろんなことができるようになるんだ」そんな目に見えない大人への信頼や希望をはぐくんできた保護者参加の行事、人と人がつながる行事。これらに代わるものがあるのでしょうか。

今、新しい様式の中での模索が続いています。

大分県 認可保育園 西郡 律子(園長)

☆ リレートーク、次は熊本県からです! ☆